

要旨

タイトル： 量の多さを表す副詞的成分の意味分析－「よく」と「たくさん」－

本文：

1. 研究目的

- (1) あやぼーは、今夏で4歳になりました。たくさん(よく)食べるようになったし、たくさん(よく)歩くようになりました。

(1)で「よく」と「たくさん」は、概ね量の多さを表し、置き換え可能である。仁田(2002)では、両語は「程度量の副詞」に分類されている。しかし、同じく量の多さを表す意味であっても「たくさん食べて下さい」は自然であるのに「よく食べて下さい」や「雨よ、よく降れ」などとは言えない。このように「よく」と「たくさん」が量の多さを表す場合、両語の意味がどのように異なるか明らかにされた先行研究は、管見の限り見当たらない。本研究は、「よく」と「たくさん」の意味分析を行い、相互の意味の類以点・相違点を明らかにすることを目指す。

類義関係にある「よく」と「たくさん」は、共に「動きの量」を限定するが、両語のもつ評価性に差がある。さらに、動きの捉え方が異なると考えられる。「たくさん」は、動きの量の多さを結果的に一まとまりとして捉えた表現であり、「よく」は、動きのプロセス(進行過程)に注目した表現であることを主張する。

2. 評価性

「よく」の多義構造は以下のように記述できる(筆者の分析による)。

別義1: <あるものの><達成・実現度が高い><と捉える><さま>

(例) この作文はよく(*たくさん)書けている。

別義2: <達成・実現された><事柄に対して><感嘆する・驚く><さま>

(例) 「大輔よく(*たくさん)走った!ナイスラン!」

別義3: <達成・実現された><事柄に対して><疑問をいなく・非難する><さま>

(例) あんなことよく(*たくさん)言うよ。

別義4: <動きや状態の><質の><達成・実現度が高い><と捉える><さま>

(例) よく(*たくさん)見てごらん。

別義5: <動きや状態の><量や程度の><達成・実現度が高い><と捉える><さま>

(例) 彼は本当にどんな本でもよく(たくさん)読んでいて物知りだよ。

別義6: <ある事柄の><頻度が高い><と捉える><さま>

(例) 「よく(*たくさん)食べる魚の料理」を3つあげてもらった。

本稿では、別義1を「よく」の基本義と考えているが、ここで言えることは、「よく」には何らかの評価性が加わっているということである。この中で「たくさん」と類義関係にあるのは、動きの量・程度に注目した別義5のみである。

動きの量の多さを表す「よく」は、命令や依頼、意志などの表現類型とは共起しないという、モダリティ制限があることが指摘されている。「もっとよく食べてください」、「雨よ、よく降れ」と言えないのは、「よく」のもつ評価性のためであると考えられる。森本（1992：77）は、評価は「評価されるべき出来事の実現を前提とする必要がある。（中略）このため本質的に未実現である意志のモダリティは評価を表す『よく』とは相いれない」と述べている。つまり、同じく量の多さを表しても、「今夜はたくさん飲みたい」は自然であるのに、「よく飲みたい」と言えないのは、「よく」のベースにある評価性を裏づけるものと考えられる。一方「たくさん」は「よく」より、より客観的に量・程度を判断する表現である。

3. 動きの捉え方の違い

佐野（2006）は、「たくさん」は「主体や対象の数量を限定」するのに対し、「よく」は「動きの量限定しか行いえないと考えられる」と述べている。しかし、上の例(1)のように「たくさん」にも、動きの量を限定する用法が認められる。(1)は「よく」と「たくさん」が置き換え可能であるが、(2)のように「テイル」形では「たくさん」と置き換えが難しい。

(2) あの赤ちゃんよく（*たくさん）泣いているね。

(3) 雨よく（たくさん）降っているね。

(2)で「たくさん」と言えないのは「泣いている」という目の前で進行している動きの量を明確に一まとまりとして捉えることができないからであると考えられる。一方、(3)では「たくさん」が自然に用いられるのは、「雨が降る」という動きの結果が、「泣く」という動きより、目に見える形で捉えることができるからであると考えられる。町田（1989:38）は『雨が降る』という事象は、『太郎が走る』と同様に継続的な性質をもっているが、その結果は、地面に水が溜まっているなどという形で、明確に知覚可能なものである」と述べている。このように「たくさん」は、動きの量を結果的に一まとまりとして捉える表現である。一方「よく」は、動きのプロセスに注目するので勢いよく降る雨や、激しく泣いている動きそのものを「よく」と捉えることができる。

主要参考文献

加藤重広（2003）『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房

佐野由紀子（2006）「あり方に関わる副詞としての「よく」について」『日本語文法の新地平 1 形態・叙述内容編』くろしお出版 pp157-177

- 高水徹（1999）『日本語の量・程度表現に関する認知言語学的分析』京都大学人間・環境研究科修士論文
- 辻幸夫編（2003）『認知言語学への招待』大修館書店
- 仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 町田健（1989）『日本語の時制とアスペクト』アルク
- 榎山洋介（2009）『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』研究社
- 森本順子（1992）「副詞的機能とモダリティー「よく」について」『京都教育大学紀要』pp71-79
- 山梨正明（1995）『認知文法論』ひつじ書房